

クラス番号	907	担当教員名	日月 裕
テーマ	病院で働くとは		
ゼミナール概要			
目的、内容、方法等： MSW は主に病院の中で働きます。そのため、患者、家族との関係だけでなく、病院との関係も重要な問題となります。病院は複雑な組織です。医師、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、理学療法士、これらは全て国家資格を持つ専門家です。病院の中で働くということは、これらの専門家と渡り合うことでもあります。これらの専門家の医療や福祉に対する考え方はそれぞれに異なっています。このような考え方の違いをある程度理解していなければ、病院で働くことは多くの困難を伴うでしょう。 また、病院には多くの種類があります。急性期、高度医療を担う病院、慢性期を主に扱う病院、ターミナルケアを行っている病院などがあります。これらの病院は、同じ病院という名前が付いていますが、中でやっていることには大きな違いがあります。MSW として、病院で働くといっても、急性期で働く場合と慢性期で働く場合は、仕事内容も、病院から期待される内容も大きく異なっています。 そこで、本ゼミナールにおいては、病院とはどのようなところであるのか、病院における医療とはどのようなものであるかを知ることを第1の目標とします。その上で、MSW が病院の中でどのようにあるべきかを考えるきっかけが出来ればよいと考えています。 演習の方法は、グループワークを基本とします。文献学習の場合も各グループでテーマを決め、調査を行い、全体への発表という形をとります。 授業計画： (前期) 主に文献を使って病院の特徴を調べます。その中でもとくに、病院の運営、経営的な視点を重視します。また、医療と福祉の考え方の違いを調べます。 (後期) 内容については、学生の希望に従って、必要があれば病院訪問などを考えます。ただ、訪問のためには下調べを重視します。			
担当教員からのメッセージ			
私は 30 年ほど臨床の医師として働いてきました。本来は麻酔科ですが関連科目として痛みの治療、癌末期の緩和医療にも関わってきました。また、医療情報システムの責任者も務めたため、経営的な問題にも関与しました。情報システムに関与したため、病院の中のあらゆる部署と関連を持ち、仕事内容を知ることが出来るようになりました。このような知識を MSW をめざす学生さんに少しでも利用してもらえればと考えています。			